



# しいの木クラブ NEWS LETTER 第7号

2013年1月25日発行

発行人:しいの木クラブ 古賀俊一郎

## 〈 選択理論による、子どもを成功させる「上質の判断基準」の提示の仕方 〉

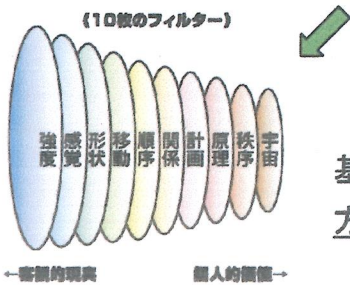
### 4. 『ご家庭でできる事』 (前号からの続き)

#### (3) 価値のフィルターの交換 (知覚のシステム)

選択理論心理学の提唱者グラッサー博士は、人にはそれぞれ幼児期からの‘経験’に基づき新脳の上質世界 (Quality World) の外側に個々別々に何層ものフィルターが掛かっていると述べます。(知覚のシステム:左図参照)

今回の郵送物:内訳  
◆NEWS LETTER 第7号  
◆月例報告書 (12月の報告書)  
◆出欠席の報告書 (別紙)

\*RTでは現在、「知識のフィルター」と「価値のフィルター」の2枚で説明されています



この価値フィルターが、その人が直面する一瞬一瞬の場面を[判断]する時の基準となってその人の行動を誘発します。であれば、その人の全行動をシフト・方向転換させる1つの有効な手段は**価値のフィルターを交換**することです。

すなわち、

- ① 今自分が持っている価値のフィルター(の一部)を交換したほうがいいことに**気づかせ**、
- ② より better な方法でそのフィルターを交換できるように**サポート**してあげることです。

例えば、「自分なんかどうせやっても無理だ」と**あきらめ症状**に陥っている子には、**逆転の人生**を歩んできた多くの人の情報を教えてあげることも有効でしょう。例をあげてみます。



ルイ・ブライユは盲目となりましたが、そのことを通して点字を発明しました。悲劇が一転して、多くの人の祝福となったのです。ハレルヤコーラスは、ヘンデルが半身不随の身でありながら作曲し、ベートーベンは聴力を失ってから第九を作曲しました。SONYの創業者である井深大氏は東芝の入社試験を落ちました。もし彼が東芝に合格していれば今日のSONYはありません。31歳で事業に失敗し、翌年選挙に立候補するも落選。再度起業するも失敗。その翌年には最愛の恋人が急死。その後結婚するも次男を病気で亡くし、選挙には合計8回落選しながらも、最後には大統領になった人がいます。そう、第16代アメリカ大統領エイブラハム・リンカーンです。



このような逆転人生を生きてきた人たちの話(情報)を聞かせてあげることが、かくあれと説く道徳や倫理よりもはるかに子どもたちを(大人さえも)勇気づけられるのではないのでしょうか?

(次号『効果的サポートのために知っておきたいこと』に続く)

しいの木クラブは、指導に於いて、最新の心理学と言われる Reality Therapy の提唱者・精神科医 Dr. ウィリアム・グラッサーが推奨するクオリティスクール (Quality School) の理念に立ちます

文責 城西学園 校内塾 しいの木クラブ 古賀 俊一郎  
株式会社立 朝日塾中学校(1期生) 特別英語指導講師  
学校法人 暁星国際学園 学力向上改革推進企画部長  
同校 中学1年特進コース担任, 校内塾主宰

学校法人 共栄学園 校内塾&プレ校内塾 K-Kids 主宰  
その他 全国各地の私学,私塾にて特別講座を展開  
週刊文春,塾ジャーナル,月刊私塾界等から取材・記事掲載  
特定非営利活動法人 日本リアリティセラピー協会会員  
日本選択理論心理学会 会員

\*中1の73%が英検3級以上に合格 (3級22人,準2級11人, 2級4人)